

12月5日

## 司祭教会博士アレキサンドリアのクレメンス

Titus Flavius Clemens

(150 頃～215 頃)

～古代ギリシア教父～

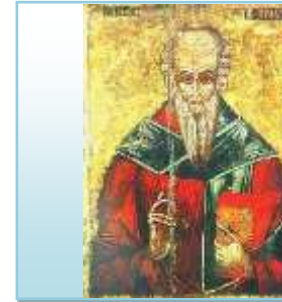
彼の正式な名前はティトゥス・フラウィウス・クレメンスで、2世紀から3世紀初頭に活躍した古代ギリシア教父です。

彼はアレキサンドリアの教父の一人で、アテナイ出身であるといわれています。彼はもともと、ギリシア哲学者として真理を探究していました。

しかしクレメンスは20歳頃、キリスト教と出会い、その信仰に導かれていきます。そして、エジプトのアレキサンドリアのキリスト教教義学校の創設者であるパンタイノスと出会い、その門を叩きます。

パンタイノスに従ったクレメンスは、キリスト教について深く学んでいきます。そしてパンタイノスの死後、彼の後を継いでカテケシス学校の学校長となります。その学校ではキリスト教を教えるとともに、異教徒とキリスト教徒両方に対するキリスト教弁証家として活躍しました。

しかし当時、ローマ帝国によるキリスト教迫害は続いており、202年のセフェールス帝による迫害の時にクレメントはアレキサンドリアを離れ、身を隠します。その後、クレメンスは一度カパドキアに現れたという記録があるだけで、そのほかの足取りは全く記録に



「アレキサンドリアの  
クレメンス」

残っていないそうです。

さて、クレメントは前述したようにギリシア哲学を学んでいましたので、哲学的教養を豊富にもっていました。また、中期プラトン主義の思想的背景も生かし、キリスト教の真理を解明しようとしていきます。

また彼は、ギリシアの教養をもった人に対しては、自らを真理として啓示する神の霊に向かわせ、また新たに入信した人に対しては、信仰を出発点として、知識に至るようにと説きました。このギリシア哲学とキリスト教信仰、知識と信仰の結び合わせは、後のキリスト教哲学と神学に大きく貢献をしていきます。さらにクレメンスの「ロゴス・キリスト論」も、現代に至るまで多大な影響を及ぼしています。

### <特禱>

**全能の神よ、あなたは主のしもべ、司祭教会博士アレキサンドリアのクレメンスの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。**  
アーメン